

2018～2023 年度(総括) 分野別計画進捗等報告書	体系番号 07030101
------------------------------	------------------

1.計画名称

縄文プロジェクト

2.計画全体の進捗状況及び総合評価

進捗評価	やや遅れている	説明	公民協働による横断的な取組により、市民の「縄文」に対する関心が高まり、当市のまちづくりに欠くことのできない地域資源として認識が深まったが、縄文プロジェクト「第2ステージ」の方向性や組織体制を検討することができていない。
今後の重点化施策番号	1	説明	将来の茅野市のために郷土の縄文文化が役立つことを願い、先人達が守り伝えてきた縄文時代の史跡や遺物を保存するだけでなく、その価値を考古学の世界に留めず、広く市民と共有し、多様な市民生活にいかしていかなければならない。形(手法)が変わったとしても、縄文をいかした(意識した)まちづくり、人づくりは継続する。

3.各施策等における評価内容と改革改善

区分	施策名称	進捗評価	総合評価		改革改善の具体的内容
			主な取組内容や成果	課題	
1	縄文プロジェクトの推進	やや遅れている	縄文文化賞事業や縄文ホームページ運営事業などにより、縄文についての認知度を高めた。 縄文・市民科学習を通じ、子どもたちの生きる力を育む「生き方学習」と故郷に誇りと愛着をもつ子どもを育成する「ふるさと学習」を支援した。	第0回縄文ライフフェスティバル(H29開催)と縄文まつりは、茅野市の縄文を知らしめるこれ以上ない取組で、縄文がまちづくりに欠くことのできない地域資源であることが広く市民に認識された。一方で、そうしたイベントをより盛大に行うことが目的化した感否めない。実行市民会議では、こうした点をふまえ、新たに組織体制を構築し、内容の見直しを行ったうえで縄文プロジェクトを継続するとしたが、今後どのように展開していくか課題である。	縄文プロジェクトの拠り所となる尖石、駒形、上之段遺跡の整備を進め、点から面で活用できる環境を整える。また、同プロジェクトの推進拠点となる尖石縄文考古館の様々な事業を実施すると共に産業や観光分野等とも連携を図り、縄文遺跡と縄文文化の価値、重要性、魅力などを市民等に強力に発信して、新たな縄文ファンを増やしていく。こうしたハード・ソフト両面で取組んでいくが、「縄文をまちづくりに活かす」ことを将来的にも継続できる状態とするために、縄文・市民科を中心に人づくりに力を入れていく。
2					
3					
4					
5					

※5つ以上の場合は裏面へ

4.関連市民団体等の主な意見及び対応のポイント

	主な意見	市の考えや対応など
関連市民団体等名称		
開催回数		
参加延べ人数		
関連市民団体等名称		
開催回数		
参加延べ人数		
関連市民団体等名称		
開催回数		
参加延べ人数		